

# 教育相談

第62号 令和4年3月 日発行  
渋谷区教育センター 教育相談室  
けやき教室



## だより

### 『チーム学校の一員として』

所長 小林 繁

日頃より、教育センター事業に御理解と御協力をいただき誠にありがとうございます。

令和3年度は、昨年度に引き続き、コロナ禍における様々な制約の中で過ごしてきた一年でした。また、この時期は、受験シーズンでもあり、児童生徒は例年以上に不安を抱えていたことと思います。

こうした中で、児童生徒や保護者の心のケアや環境改善に向けた支援が、大切であると感じています。

文部科学省は、令和4年2月9日付事務連絡「スクールカウンセラー（SC）及びスクールソーシャルワーカー（SSW）の役割等を踏まえたチーム学校による支援の促進について」において、SC及びSSWの役割等を踏まえたチーム学校による支援の充実が図られるよう、改めて以下について周知しています。

1 「児童生徒の教育相談の充実について～学校教育力を高める組織的な教育相談体制づくり～（報告）」

（平成29年1月）[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/066/gaiyou/1381049.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/066/gaiyou/1381049.htm)

2 「児童生徒の心のケアや環境の改善に向けたスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーによる支援の促進等について」（令和2年5月14日付）

1の報告では、SC及びSSWの役割を次のように整理しています。（職務内容も掲載）

OSCは、児童生徒・保護者・教職員に対するカウンセリングだけでなく、情報収集・見立てや助言・援助等を行うことが求められる。

OSSWは、児童生徒や保護者のニーズを把握し、支援を展開するとともに、学校や自治体を始めとする関係機関への働き掛けを行うことが求められる。

2の事務連絡では、「 」内は抜粋）

「児童生徒と最も多く接する学級担任等が、今般の極めて特殊な状況において、特に課題となる児童生徒の心理面の問題等に適切に対応できるよう、学級担任等に対し、個々の児童生徒の状態に応じた適切な支援に関する助言・援助を行うことが必要である。」とし、SCやSSWが学級担任等と定期的に情報共有を行うことやケース会議等の開催を促し、組織としての支援につなげることが重要としています。

渋谷区教育センターは、渋谷区子育てネウボラの理念の下に、関係機関と密に連携して相談事案を早期に解決することを目指しています。相談される方の来所や電話を“待つ相談支援”だけでなく、相談員が“出向く相談支援”に力を入れ相談支援事業を推進しているところです。

SSWが学校訪問させていただいた折には、ぜひ情報共有いただき、児童生徒や保護者の支援に向けて課題解決するチーム学校の一員に加え、ご活用いただきますようお願いいたします。

また、本号では「けやき教室」通室生の日頃の活動やがんばっている姿を紹介させていただいています。ぜひ、ご覧いただき、より一層のご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。

今後とも、渋谷区のすべての子供たちが、心豊かにたくましく成長することを願い、身近な相談機関として相談活動の充実に向けてまいりますので、遠慮なくご相談いただければ幸いです。

## 教育相談室より

教育センターでは、区内在住・在学の幼児（年長）・児童・生徒の「学校へ行きたがらない」「友達とうまく遊べずトラブルが多い」「落ち着きがなく、ルールを守れないことが多い」等、お子さんの教育や生活に関する様々な相談をお受けしています。

[ ご相談はこちらまで 📍 ]

来所相談（予約制）

電話相談 📞 新規 03-3463-3798

メール相談 ohisama17@shibuya.tokyo

月曜日～金曜日

9時～17時



手前味噌ですが、利用者の声を載せさせていただきました。

親と子、それぞれの心配事を聞いてもらい、親子関係が良好になった。

学校へ行きたがらない子どもの事で思い切って連絡をした。話をよく聞いてくれて親身に相談してくれた。

子どもが喜んで行ってくれる。終わった後はスッキリしている。

お話ししながら遊べて楽しかった。

教育センターに行ってもよかった！安心できる場所です。

一人で悩まず、早く教育センターへ連絡を取れば良かった。

医療や福祉に繋がってくださり、助かりました。

その他、学校訪問による教育相談や必要に応じて各関係機関との連携を図り、様々な相談支援を行っております。



### 優しい木

優しい木はいつも優しいから、何でも話していいんだって。旨く言えない事とかも。

（「君の隣で」益田ミリ 著 より）

## <けやき教室より>

「けやき教室（相談指導教室）」では、様々な理由で学校に通うことができない児童・生徒の学校復帰を目的として、学習支援や心のケア、社会的自立に向けた援助を行っています。小集団ならではの良さを生かし、日々の関わりを通して、基礎学力の向上を目指した支援や、集団生活を送るために必要なコミュニケーション能力、社会性などを育む働きかけをしています。

### <この1年を振り返って>

令和3年度も、けやき教室は長引く新型コロナウイルス感染症への対策を行いながら学習や体験活動を行いました。子どもたちはけやき教室に来室すると、手洗いと消毒をして学習室に入り、互いに距離を取った席に着きます。学習室は換気のために窓や入口のドアを常時少し開けています。また相談員は子どもたちと話す時には正面から向き合わないようにする、子どもたちに手洗いや消毒をするようにこまめに声をかける、教材や遊具などの消毒を徹底するなどしています。

学習時間中、子どもたちは持参した教材を使って個別に学習を行い、わからないところを相談員に教わりながら学習を進めました。タブレットを使って学校のオンライン授業に参加したり、担任の先生と連絡を取り合ったりして、学校との繋がりを大切にしようと努力した子どもたちもいました。



「菜園でたくさんの野菜がとれました」



「色彩豊かな七宝焼きの作品です」

また、けやき教室では感染症対策を十分に講じながら体験活動を実施しました。定期的に1階のレクホールで行うスポーツ活動や、屋上での菜園活動には多くの子どもたちが参加しました。

7月にはボウリングに出かけ、いつもと違ったスポーツを楽しみました。11月には秋の遠足で立川市の昭和記念公園に行きました。天候に恵まれ、広い公園で子どもたちはボートを漕ぎ、自転車に乗り、お弁当を食べ、思いきり身体を動かしました。他にも11月・12月には講師の先生を迎え、切り絵や

七宝焼き体験を行い、それぞれが集中して素敵な作品を作り上げました。1月の書き初めでは各自が選んだことばを太筆で堂々と書き上げました。体験活動はけやき教室の子どもたちにとって、普段とは違った環境の下で共に過ごすことで他者と関わる楽しさを感じ、互いを知ることができる良い機会です。今年度も子どもたち同士がほめあい、協力する姿が見られました。

### <今後に向けて>

けやき教室は子どもたちが安心して過ごすことができる場所です。学校や学年、そして不登校の背景も違う子どもたちが、自分のペースに合わせて通ってきています。けやき教室では子どもたちの思いや願いを丁寧に受け止め、「学校へ行こうと思っても身体が動かない」「勉強の遅れが心配」といった不安を和らげ、前に向かって進み出そうとする力を蓄えられるよう、支援を行っていきます。

## 相談員が選んだ子育て中に読んでほしい本の紹介

子育てハッピーアドバイス  
大好き！が伝わる  
ほめ方・叱り方(小学生編)  
明橋 大二 著 1万年堂出版

【書評】目から鱗！「子どもの自立心を育てるには、甘えを受け止めること・ほめること」とあります。イラストが多く読むというより見て楽しめる本です。  
※シリーズもたくさん出ています。

『実践ポジティブ心理学』  
前野 隆司 著 PHP 研究所

【書評】コロナ禍でどうしてもネガティブになりがちです。しかし、心の持ち方により少しは楽しい気持ちに変えられます。  
「なんとかなる」と前向きに考えられる本です。

おまけ

『きみの隣で』(コミック)  
益田 ミリ 著 幻冬舎文庫

【書評】森の木に「優しい木」と名付けた親子。「優しい木は優しいから何でも話していいんだね。うまく言えない気持ちとか。じわじわとやさしさが広がる名作漫画。読み終わるとほのぼのします。

発行：渋谷区教育センター  
住所：渋谷区宇田川町 5-6  
電話：(新規) 03-3463-3798  
メール：ohisama17@shibuya.tokyo  
発行責任者：小林 繁  
令和4年 3月 発行

その他センターには子育てに関する本がたくさんあります。相談に来ている方には貸し出しもしています。

伝わる！声かけ変換  
～毎日がラクになる親子コミュニケーション～  
大場 美鈴 著 あさ出版

【書評】「いい加減にしないで！⇒あと何分で終わりそう？」「だから言ったでしょ！⇒どうすればよかったっけ？」あら不思議子どもが素直に聞いてくれる。親のバイブルのような本です。

『幼い子のいる暮らし』  
毛利 子来 著 ちくま文庫

【書評】幼い子と暮らすことは楽しいばかりじゃないけれど、親も子も肩の力を抜いて過ごす工夫が医師の言葉で丁寧に書かれています。他にも障害の子どもの暮らしに関するシリーズも出ています。

子どもって色々。大人も色々ですね。周りの人たちと繋がりを持ちながら生きていくそれぞれの人生。大人になった者から子どもたちにどんなメッセージを送ってあげられるでしょうか。

「あんな方法もあるよ」「こんな方法もあるよ」と応援していくのもいいけれど、子どもたちの話をじっくり聞いてあげて、温かい食事を一緒にしたりするのも大きなエールだと思います。

『子どもの笑顔が見たい、保護者の方の笑顔が見たい』その一心で教育センターでは相談を行っています。